

閉経による血管運動症状についてのシステマティックレビューとメタ解析

Vasomotor symptoms resulting from natural menopause : a systematic review and network meta-analysis of treatment effects from the National Institute for Health and Care Excellence guideline on menopause

Sarri G et al

BJOG 124:1514-1523, 2017

背景 閉経の顕著な特徴である血管運動症状は、英国では閉経した女性のおよそ 75% が経験し、25% に強い症状が認められる。

目的 自然閉経による血管運動症状に対してどのような治療法が最も効果的であるのかを調べることを目的とした。

方法 2015 年 1 月 13 日までの MEDLINE, Embase, Cochrane Library の 3 つのデータベースを検索し、子宮が摘出されていない閉経した女性の血管運動症状、不正性器出血、治療の中止の発現頻度を検討した。

結果 47 のランダム試験で 16 種類の治療法があり、8,326 人の女性について調べられた。プラセボと比較すると、経皮エストラジオールとプロゲステロン(O+P)が、閉経による血管運動症状の頻度低減に対して最も効果的な治療である確率 69.8% (症状の発現頻度の平均の比, MR 0.23 ; 95%信頼区間 CI 0.09-0.57) であっ

た。経口の O+P と経皮 O+P の効果には有意差はなかったが (MR 2.23 ; 95% CI 0.7-7.1), 経口の O+P の有効性の順位は低かった。大豆に含まれるイソフラボンや西洋ハーブのブラックコホシュはプラセボと比較して効果的であったが O+P ほどではなかった。選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (SSRI) およびセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 (SNRI) は血管運動症状に対する効果は認められず、プラセボと比較して治療中止となる確率が有意に高かった。性器出血に関してはデータが少なく、検討できなかった。

結語 子宮を有する女性の閉経後の血管運動症状に対しては、経皮エストラジオールとプロゲステロンが最も効果的な治療である。

(滋賀医科大学産科学婦人科学講座 池川貴子 抄)

原因不明不妊への治療はゴナドトロピン刺激による人工授精か体外受精か：ランダム化比較試験

Intrauterine insemination with gonadotropin stimulation or in vitro fertilization for the treatment of unexplained subfertility : a randomized controlled trial.

Nandi A et al

Fertil Steril 107:1329-1335. e2, 2017

目的 原因不明不妊の第一選択治療として卵巣刺激による人工授精 (IUI) と体外受精 (IVF) のどちらを勧めるか検討した。

方法 女性年齢 23~37 歳, BMI 19~30, 月経周期 21~35 日, 両側卵管疎通性があり, FSH<10 IU/L, 精液所見 WHO 基準以上の原因不明不妊カップルを対象に RCT を行った。207 組を卵巣刺激+IUI 3 周期群 (IUI 群) 101 例, IVF 1 周期群 (IVF 群) 106 例に振り分け, 6 カ月間の単胎生産率, 生産率, 臨床妊娠率, 多胎妊娠率, OHSS 発症率, 治療周期内の自然妊娠率を比較した。IVF 群では新鮮胚移植 (1~2 個) を行い採卵数 20 個以上の場合には胚凍結とし 1 回目の胚移植のみを対象とした。

結果 カップルあたりの単胎生産率は IUI 群 24.7% (25 例), IVF 群 31.3% (33 例) (RR 1.3 ; 95% CI 0.81-1.96), 生産率は, IUI 群 28.7% (29 例 : IUI 妊娠 17, 自然妊娠 5, IVF 移行妊娠 7), IVF 群 33.9% (36 例 :

IVF 妊娠 23, 自然妊娠 13) (RR 1.8 ; 95% CI 0.78-1.77) と有意差を認めなかった。臨床妊娠率は 33.6% に対し 46.2%, 多胎妊娠率 13.8% に対し 8.3%, 流産率 12% に対し 26.5% といずれも有意差を認めなかった。卵巣過剰刺激症候群 (OHSS) は IVF 群のみ発症し 3.7% であった。全体での自然妊娠率は 8.2% であった。

生産あたりの費用は 8,166 ユーロ, IVF 群 10,560 ユーロと, コスト比 1 : 1.3 で IVF 群が高かった。

結語 プロトコールに則った包括解析では原因不明不妊カップルにおいて IVF 1 周期での単胎生産率は卵巣刺激+IUI 3 周期と有意差を認めなかった。未治療で自然妊娠も期待できる場合には IVF のコスト, 侵襲, 患者の希望を吟味して方針を決めるのがよい。

(滋賀医科大学産科学婦人科学講座 高島明子 抄)